

グローバル・スタディーズ研究センター

2021年度プロジェクト

2021-1

2021年4月1日開催

カリフォルニア大学バークレー校 Center for Japanese Studies のセミナーを共催しました

2021年4月1日（日本時間では4月2日）にカリフォルニア大学バークレー校 Center for Japanese Studies で開催されたセミナーを共催いたしました。当センター研究員の湖中真哉が講師を務め、フィールドワークの方法論に新しい境地を拓くグローバルな当事者間のニーズ共有接近法について解説いたしました。聴衆からはオンラインの機能を使った多くの質問を受け、熱心なやり取りがなされました。

セミナーのテーマ：Decolonizing Ethnographic Fieldwork Methods through Collaborations between Local Residents and College Students: The “e-Satoyama (sustainable landscape) Project” in Kenya and Japan with an Emphasis on the Concept of Global Tojisha

セミナー講師：湖中真哉 静岡県立大学教授 グローバル・スタディーズ研究センター研究員

司会：羽生淳子 カリフォルニア大学バークレー校教授 Center for Japanese Studies センター長

セミナーの要旨：The tradition of ethnography originating in the West has been decolonized through the last hundred years. From the end of the last century to the beginning of this century, the asymmetrical dichotomy between investigator and informant, human and nature, subject and object, donor and recipient has been questioned more radically from the perspectives of postcolonial studies, ontology, and Anthropocene-related sciences. This presentation explores the possibilities of connecting arguments on critical ethnography in the West to the two Japanese concepts of tojisha [the parties concerned] and satoyama [a border zone between mountain foothills and villages], with a focus on two cases of ethnographic education: the first case in Shizuoka Prefecture in Japan, and the second case in Narok County in Kenya. These project cases illustrate how these projects, as a “hybrid agency” of both cultures, urged participants to act and inspired Japanese undergraduate students who were initially less motivated. A project-centered ethnographic approach does not presuppose

a description of the “different culture” but seeks common solutions to global issues, leading to the gradual dissolution of the asymmetrical dichotomy that exists in both education and ethnography.

2021-2

2021年7月10日(土)開催

「自著を語る」シリーズ 『外国人看護師』出版記念講演会

本センターは2021年7月10日(土)19時より、「自著を語る」シリーズ講演会『外国人看護師』—アジアの高齢化と看護師の越境移動に関する今後の展望』を開催いたします。

静岡県立大学国際関係学研究所 30周年記念イベント 静岡県立大学大学院国際関係学研究所附属グローバル・スタディーズ研究センター「自著を語る」シリーズ 『外国人看護師』—アジアの高齢化と看護師の越境移動に関する今後の展望～平野裕子・米野みちよ編 『外国人看護師—EPAによる受入れは何をもたらしたのか』(東京大学出版会 2021年)の出版記念講演会～

今後の外国人看護師をはじめとした医療福祉専門職の研究には、当該専門職の領域(看護および介護)の他に、経済学・歴史学・文化人類学・言語学といった様々な領域からの、国際的かつ学際的なアプローチが必要である。このブックローンチでは、『外国人看護師』の書籍を足掛かりとし、今後の研究の展開を検討する。

<日時>2021年7月10日(土)19:00-20:30(JST)(1時間半)

<形態>オンライン(ZOOM)

お申し込みはこちら:

<https://docs.google.com/forms/d/1NdCf8XTpa2DFVUcPfWPRCOqppzu6acxtHtEiWlcZex0/edit> (当日までに、リンクをお送りします。)

<登壇者>

平野裕子(長崎大学教授)

米野みちよ(静岡県立大学教授/グローバル・スタディーズ研究センター研究員)

大野俊(清泉女子大学教授)

比留間洋一(静岡大学特任准教授)

コラ・アニョヌエボ(ヘルス・フューチャー財団会長、フィリピン国家資格委員会看護師部門元メンバー)

カトリナ・ナヴァリョ(国際機関日本アセアンセンター)

スシアナ・ヌグラハ(レスパティ大学家族・高齢化研究センター副代表)

坪田邦夫（日本農業研究所客員研究員）

司会：石井由香（静岡県立大学教授/グローバル・スタディーズ研究センター副センター長）

コメンテータ：天野ゆかり（静岡県立大学講師）、テレシア・マリア・トジ・ピオ（EPA 看護師）

使用言語：日本語（一部英語 通訳なし）

問い合わせ: epanurse@gmail.com

*本イベントは、トヨタ財団国際助成プロジェクト「アジアの高齢化と人の移動を展望し活力を生み出す企業、政策提言、研究—フィリピン、インドネシア、ベトナムの EPA 看護師らの交流」（代表 米野みちよ）の一環です。

静岡県立大学国際関係学研究所30周年記念イベント

静岡県立大学大学院 国際関係学研究所附属グローバル・スタディーズ研究センター「自著を語る」シリーズ

『外国人看護師』

—アジアの高齢化と看護師の越境移動に関する今後の展望

～平野裕子・米野みちよ編『外国人看護師—EPAによる受入れは何をもたらしたのか』
(東京大学出版会 2021年)の出版記念講演会～

今後の外国人看護師をはじめとした医療福祉専門職の研究には、当該専門職の領域(看護および介護)の他に、経済学・歴史学・文化人類学・言語学といった様々な領域からの、国際的かつ学際的なアプローチが必要である。このブックローンチでは、『外国人看護師』の書籍を足掛かりとし、今後の研究の展開を検討する。



2021年 **7月10日** **土** 19:00-20:30 (JST) (1時間半)

オンライン開催(ZOOM) ※講演の一部は、通訳なしの英語で行います

お申し込み ▶ <https://docs.google.com/forms/d/1NdCf8XTpa2DFVUcPfWPRCOqppzu6acxtHtEiWlcZex0/edit>
※URLまたは右記QRからお申込みください。当日までに、ZOOMのリンクをお送りします。



- 登壇者** 平野裕子(長崎大学教授)
米野みちよ(静岡県立大学教授 / グローバル・スタディーズ研究センター研究員)
大野俊(清泉女子大学教授)
比留間洋一(静岡大学特任准教授)
コラ・アニョヌエボ(ヘルス・フューチャー財団会長、フィリピン国家資格委員会看護師部門元メンバー)
カトリナ・ナヴァリヨ(国際機関日本アセアンセンター)
スシアナ・ヌグラハ(レスパティ大学家族・高齢化研究センター副代表)
坪田邦夫(日本農業研究所客員研究員)
- 司会** 石井由香(静岡県立大学教授 / グローバル・スタディーズ研究センター副センター長)
- コメンテータ** 天野ゆかり(静岡県立大学講師)
テレシア・マリア・トジ・ピオ(EPA 看護師)

問い合わせ: epanurse@gmail.com グローバル・スタディーズ研究センター: <http://ceglos.u-shizuoka-ken.ac.jp/>

*本イベントは、トヨタ財団国際助成プロジェクト「アジアの高齢化と人の移動を展望し活力を生み出す企業、政策提言、研究—フィリピン、インドネシア、ベトナムのEPA看護師らの交流」(代表 米野みちよ)の一環です。



2021-3

2021年10月30日

センター研究員を中心に活動するプロジェクトが2021年度の第11回地域研究コンソーシアム賞（JCAS賞）社会連携賞を受賞

去る2021年10月30日に、当センター研究員・松浦直毅を中心に活動するNPO法人アフリック・アフリカの「コンゴ・水上輸送プロジェクト」が、第11回地域研究コンソーシアム賞（JCAS賞）社会連携賞を受賞しました。

受賞結果 第11回地域研究コンソーシアム賞（JCAS賞）社会連携賞 NPO法人アフリック・アフリカ「コンゴ・水上輸送プロジェクト」

<http://www.jcas.jp/activities/2021/10/112021.html>

主催団体は地域研究に関連する組織の連携団体である地域研究コンソーシアム（JCAS）です。JCASは国家や地域を横断して地域研究の進展を図り、関連組織を連携して研究の実施と支援の体制を構築する目的のもと、大きく貢献した研究者や組織による研究業績と社会連携活動を広く顕彰しています。顕彰部門には1) 研究作品賞、2) 登竜賞、3) 研究企画賞、4) 社会連携賞があります。今回の受賞は4) 社会連携賞で、狭義の学術研究に限らない分野で賞の趣旨に合致する活動実績として高く評価されました。

受賞したプロジェクトの概要は以下のとおりです。

<https://afric-africa.org/africa/waiwai/>

くわしい内容は以下の書籍に記載されています。

松浦直毅・山口亮太・高村伸吾・木村大治 編著『コンゴ・森と河をつなぐー人類学者と地域住民がめざす開発と保全の両立ー』明石書店、2020年刊

主催団体についてくわしくは以下のサイトをご覧ください。

地域研究コンソーシアム賞（JCAS賞）

<http://www.jcas.jp/about/awards.html>

2021-4

2021年11月21日(日)開催

「自著を語る」シリーズ 『アンダークラス化する若者たち』出版記念セミナー

本センターは2021年11月21日(日)14時より、「自著を語る」シリーズ講演会『『アンダークラス化する若者たち』—グローバル化する社会における若者支援を考える』を開催いたします。

静岡県立大学国際関係学研究科30周年記念イベント 静岡県立大学大学院国際関係学研究科附属グローバル・スタディーズ研究センター「自著を語る」シリーズ 宮本みち子・佐藤洋作・宮本太郎(編著)『アンダークラス化する若者たち—生活保障をどう立て直すか—』(明石書店2021年)の出版記念講演会～

若者のアンダークラス化が止まらず、不安定な雇用、際立つ低賃金、結婚・家族形成の困難という特徴をもつ若者たちが増加しています。『アンダークラス化する若者たち』は、若者たちが社会保障制度の陥没地帯となってきたという認識に立ち、若者の生活保障を社会的投資として確立することを提起し、今後の展望を検討しています。

このブック・トークでは、同書の著者である研究者・若者支援者たちが、「グローバル化する社会における若者支援を考える」というテーマで語りあいます。

<日程> 2021年11月21日(日)14:00—16:00

<場所> オンライン(zoom) お申込みを受けてzoom URLをご案内します。

<登壇者>

宮本みち子(放送大学/千葉大学名誉教授) 「アンダークラス化する若者たち:その論点」
佐藤洋作(NPO法人文化協同学習ネットワーク代表理事) 「海外の若者支援と日本の若者支援を対比する」

藤井敦史(立教大学教授) 「市民社会が作り出す若者支援」

浜田江里子(立教大学准教授) 「社会的投資と若者支援」

津富宏(静岡県立大学教授/NPO法人青少年就労支援ネットワーク静岡顧問) 「グローバル化への対抗としての就労支援」

<申込み> <https://forms.gle/ny6SMxcdCdirjbT96> 締切り 11月19日(金)

<問合せ> 企画責任者 津富宏 メール：tsutomi@u-shizuoka-ken.ac.jp

<主催> 静岡県立大学グローバル・スタディーズ研究センター

2021-5

2021年11月～2022年2月開催

Study CIRcle 2021-2022 公開レクチャーシリーズ

本センターは「Study CIRcle 2021-2022 公開レクチャーシリーズ」を開催します。ふるってご参加ください。

第1回「カンボジアの子どもたちに権利ベースでアプローチすることとは」

第2回「『脱家族化』が支える北欧の愛の理論」

第3回「韓国の教育格差是正策－教育と福祉を架橋する学校の取り組み」

第4回「使い捨てプラスチック問題と解決策～脱使い捨てを実現する「リユース革命」～」

第5回「こども虐待と求められる支援～子どもの権利の観点から～」

第6回「性別による婚姻の制限は国際人権法違反か？」

第7回「高学力国家シンガポールの教育の光と影－実力主義政策の功罪と今後の教育改革の動向」

グローバル・スタディーズ研究センターでは、学生が自らの知的好奇心に基づいて、自ら設定したテーマを追求する StudyCIRcle という活動を、昨年度から行っています。Study CIRcle では、学生の要望に応じて、専門家の先生をお招きしてお話を伺うことを特徴としており、これをレクチャーシリーズとして公開します。当日は、先生をお呼びした学生が進行を行い、レクチャーに加えて、本人からの質疑を中心に進行します。

公開レクチャーシリーズ第1回概要

講師 甲斐田万智子先生（文京学院大学）

日程 11月27日（土） 14時から15時まで

講義タイトル 「カンボジアの子どもたちに権利ベースでアプローチすることとは」

講義概要：

カンボジアでは、2019年の多次元貧困率は37.2%（UNDP）、2020年の5歳～14歳の児童労働の割合は7.5%（243,371）（ILO）と、未だに深刻な生活状況にいる子どもは多い状況です。国際的な支援方法として、子どもと大人に、子どもの権利を伝えてエンパワメントする方法があり、カンボジアでも取り組まれています。今回は、実際にカンボジアの現地NGOと連携して子どもの権利を守る活動をしている、甲斐田万智子さんをお招きして、カンボジアの子どもたちに権利ベースでアプローチしたときの実体験のお話やその意義について話していただきます。

講師プロフィール：

甲斐田万智子/認定NPO法人国際子ども権利センター 代表理事、文京学院大学教員、広げ

よう！子どもの権利条約キャンペーン共同代表。

インドで働く子どもが児童労働問題解決に参加しエンパワーされるのを見てきた体験から、シーライツの職員として日本で子どもの参加の権利を普及する活動を進める。2004年からカンボジアで子ども自身が人身売買や児童労働をなくす活動に従事。編著『世界中の子どもの権利をまもる 30 の方法』（合同出版）、「児童労働と子どもの権利ベース・アプローチ」『児童労働撤廃に向けて：今、私たちにできること』（アジア経済研究所）、共著『SDGs と開発教育持続可能な開発目標のための学び』（学文社）、共編著『小さな民のグローバル学：共生の思想と実践を求めて』（上智大学出版）共著『対人援助のためのコミュニケーション学：実践を通じた学際的アプローチ』（文京学院大学総合研究所）ほか。

申込フォーム：

<https://forms.gle/bH7p9B7M9WoRN2Fw5>

講義前日までにお申し込みください。

公開レクチャーシリーズ第2回概要

講師 藪長千乃先生（東洋大学）

日程 12月3日（金）16時から18時まで

講義タイトル 「『脱家族化』が支える北欧の愛の理論」

講義概要

私たちが生きていく上で直面する、進路・職業選択、子育てや介護といったライフイベント。自分がしたいことを本当に自分の意思で決めることはできているのでしょうか？人生における選択の多くが家族の存在に大きく影響されています。「大学で学びたいけど学費を払うのが難しいから…」「仕事を続けたいけど子育てや介護があるから…」という声はよく聞かれます。家族への依存と家族とのつながりを大切にすることはどう違うのでしょうか？北欧では、人が生まれてから一生を終えるまでの社会保障がとても充実しています。なぜ北欧諸国では一人ひとりの自律を支える社会政策の実現が可能だったのか——今回は、北ヨーロッパ学会会長の藪長千乃先生をお招きして、一人ひとりが自律し家族との心のつながりを大切にできる北欧の社会政策についてお話していただきます。

講師プロフィール 藪長千乃（やぶなが ちの）

東洋大学国際学部教授。一橋大学卒業、東京都勤務、早稲田大学大学院社会科学研究所博士課程満期退学。北ヨーロッパ学会会長。日本政治学会理事などを歴任。専門：比較福祉政策論、地域研究（北欧）共編著『世界の保育保障』（法律文化社）、主論文「フィンランドにおける「児童保護」：普遍主義的な福祉制度下における要保護ニーズへの対応」（社会保障研究）、「北欧5か国における家族政策の相違—脱商品化、脱家族化からみた家族政策分析への試論—」（ビョルク）。

申込フォーム：<https://forms.gle/2LKVJ6FxxkbEXV1RA>

* 講義前日までにお申し込みください。

公開レクチャーシリーズ第3回概要

講師 尾崎公子先生（兵庫県立大学）

日程 12月9日（木） 16時から18時まで

講義タイトル 「韓国の教育格差是正策－教育と福祉を架橋する学校の取り組み」

講義概要：

韓国では、1960年代以降、首都圏一極集中が進み、首都圏と地方間の経済、社会文化的格差が拡大しています。特に、農村地域では、単親家庭や貧困家庭などいわゆる社会的に脆弱な家庭層が集中する傾向がみられ、階層間格差と教育格差が輻輳する地帯となっています。韓国では、そうした問題にいかに対応してきたのか。講演では、田園学校プロジェクトなど格差是正策などをとりあげ、教育と福祉を架橋する役割を学校が担い、脆弱な家庭層の教育支援に向けた地域ネットワークの要となっている実践例などを紹介します。日本でも子どもの貧困が問題となり、学校は貧困対策のプラットフォームに位置づけられています。韓国の事例から、日本の取組みにどのような示唆が得られるかをみなさんで考えてみたいと思います。

講師プロフィール： 尾崎公子（おぎき きみこ）

兵庫県立大学教員、関西大学大学院博士後期課程文学研究科単位取得退学博士（文学）、アメリカウイスコンシン大学マディソン客員研究員、教育政策が専門。大学では、“コミュニティ創出のための教育論”を掲げ教育・研究を行っています。共著『小さな学校と小さな地域』明石書店2020

申込フォーム：<https://forms.gle/oi8Wn3VaHyXudNuR7>

講義前日までにお申し込みください

公開レクチャーシリーズ第4回概要

講師 大館弘昌さん（国際環境 NGO グリーン・ピースジャパン）

日程 2021年12月15日（水）18時から20時まで

講義タイトル 「使い捨てプラスチック問題と解決策～脱使い捨てを実現する「リユース革命」～」

講義概要

海の問題としてだけ捉えられがちなプラスチック問題をさらに深掘りし、リサイクルや代替素材の問題点などに触れ、本当に必要とされている解決策である「脱使い捨て」についてご紹介していきます。

講師プロフィール

2015年、グリーンピースに入職。2018年よりプラスチック問題を担当し、市民と共に企業・政府への働きかけを行なっている。リユースを広めることで、世界中で環境汚染・社会的不正義を引き起こしている大量生産・消費モデルから抜け出し、グリーンで公正な未来(Green

and Just Future) の実現に繋げることを目指している。

申込フォーム： <https://forms.gle/5C9wAU3Kmrh2wpC8A>

* 講義前日までにお申し込みください。

公開レクチャーシリーズ第5回概要

講師 川松亮先生 (明星大学)

日程 12月18日(土) 19時から21時まで

講義タイトル 「こども虐待と求められる支援～子どもの権利の観点から～」

講義概要

近年、急増している子どもの虐待。それに向き合う児童相談所や家族など、子どもの周りにいる大人たち。守られるはずである子どもの権利。それぞれの立場や子どものためにできることとそれらの限界など、いま一度考え直してみませんか？今回は明星大学教授の川松先生にお越しいただき、子どもの虐待に対して子どもの権利を用いて、必要な取り組みをご講義いただきたいと思います。

講師プロフィール

明星大学常勤教授。東京都の福祉職として児童養護施設等で勤務ののち、児童相談所で児童福祉司として務後。その後、厚生労働省児童福祉専門官、子どもの虹情報研修センター研究部長を経て現職。世田谷区・荒川区児童福祉審議会委員、認定NPO 法人児童虐待防止全国ネットワーク理事、「なくそう!子どもの貧困」全国ネットワーク世話人などを務める。専門：児童福祉、児童相談 (キーワード：子ども家庭福祉制度、子ども家庭相談、子ども虐待、子どもの貧困)

申込フォーム： <https://forms.gle/jYm3KZyBWrxPguXLA>

* 講義前日までにお申し込みください。

公開レクチャーシリーズ第6回概要

講師 谷口洋幸先生 (青山学院大学)

日程 2021年12月22日(水) 13時から15時まで

講義タイトル 「性別による婚姻の制限は国際人権法違反か？」

講義概要

現在、30の国と地域において婚姻は相手の性別を問わず可能となっている。日本でも2019年から「結婚の自由をすべての人に」訴訟がはじまり、2021年3月には札幌地裁において初めての判決が下され、現行法の憲法14条違反性が認定された。しかしながら、原告の主張にもかかわらず、本判決では国際人権法に関する議論が完全にスルーされている。1990年代から国際人権法では婚姻の性別による制限の条約適合性について議論が続いてきた。講演では主にヨーロッパ人権条約の事例をもとに、国際人権法上の婚姻する権利がどこまで何を国に義務づけているか検証する。

講師プロフィール 谷口洋幸（たにぐち・ひろゆき）。

青山学院大学教授。中央大学大学院法学研究科博士後期課程修了、博士（法学）。日本学術振興会特別研究員 PD、早稲田大学助手、高岡法科大学准教授、金沢大学准教授を経て現職。日本学術会議連携会員。国際人権法学会理事、ジェンダー法学会理事。編著に『LGBTをめぐる法と社会』（日本加除出版・2019）、『セクシュアリティと法』（法律文化社・2017）、『性的マイノリティ判例解説』（信山社・2011）。

申込フォーム：<https://forms.gle/wQv6GSSn7Rux8vwQ8>

* 講義前日までにお申し込みください。

公開レクチャーシリーズ第7回概要

講師 池田充裕先生（山梨県立大学）

日程 2022年2月27日（日）14時から16時まで

講義タイトル 「高学力国家シンガポールの教育の光と影－実力主義政策の功罪と今後の教育改革の動向」

講義概要

皆さんも、シンガポールの子どもの学力がとても高いということを目にしたことがあるかもしれません。しかしここで大切なのは、ここでいう"学力"がどのような資質・能力を意味しているのか、ということでしょう。今世界の国々や国際機関は、"コンピテンシー"や"エージェンシー"とも称される、これからの時代に求められる資質・能力を構想し、そのための教育方法や教育制度、教員養成などのあり方を模索しています。日本を上回る高学力国家として知られるシンガポールが、これまでにどのようにしてその基盤を築き、新しい時代に臨もうとしているのか、その制度的変遷や実際の授業の様子、教育改革の動向などを踏まえて考えてみたいと思います。日本の大学入試制度改革や文科省・学校の新型コロナウイルスへの対応などに歯がゆいを感じている方は、シンガポールの教育から何かヒントを見出すことができるかもしれません。このような観点から、今回はシンガポール国立大学に留学し、シンガポールの教育を長らく研究されている山梨県立大学教授の池田充裕氏をお招きして、「高学力国家シンガポールの教育の光と影－実力主義政策の功罪と今後の教育改革の動向」というテーマでお話いただきます。

講師プロフィール

山梨県立大学人間福祉学部教授。筑波大学大学院博士課程教育学研究科単位取得退学（教育学修士）。2001年山梨県立女子短期大学幼児教育科助教授、2005年山梨県立大学人間福祉学部准教授を経て、2014年より現職。1995年より2年間、文部省アジア諸国等派遣留学生として、シンガポール国立大学に留学し、シンガポールや東南アジア地域の教育研究を進めている。専門は比較・国際教育学。主な著書に、「シンガポール－成績評価から、人間性評価へと舵を切る教育改革」（大塚豊監修・牧貴愛編著『アジア教育情報シリーズ2巻 東南アジア編』一藝社2021年）、「シンガポールのカリキュラム・マネジメントと授業の質保証」

(原田信之編著『カリキュラム・マネジメントと授業の質保証』北大路書房 2018 年)、「シンガポールの市民性教育－道徳教育と市民性教育」(平田利文編著『アセアン共同体の市民性教育』東信堂 2017 年)、「強靱な学力を鍛え上げる学校－シンガポール」二宮皓編著(『新版世界の学校－教育制度から日常の学校風景まで』学事出版 2014 年)など。

申込フォーム： <https://forms.gle/wcKYqozbu1Kapfrt6>

* 講義前日までにお申し込みください。

2021-6

2022年2月12日(土)開催

令和3年度 CEGLOS 移動大学「映像で知ろう！外国人との共生」

グローバル・スタディーズ研究センターは静岡市地域福祉共生センター「みなくる」と共催でドキュメンタリー上映会を企画しています。映像でとらえた外国人の暮らしを知り、共生に向けた第一歩とすることができればと考えています。ネパールから来日した家族の映像を鑑賞し、映像制作者と研究者が解説します。映像が伝える生き生きとした事実の記録を共有しましょう。

映像タイトル： 「ジャパニ ～ネパール 出稼ぎ村の子どもたち～」

舞台(国)： ネパール、日本

映像や字幕の言語： ネパール語・日本語字幕

テーマ： 東京で働くネパール人夫婦と村に残された娘との別離にともなう葛藤—娘の視点は

日時： 2022年2月12日(土) 9:40 開会(入室開始 9:20)

スケジュール：

9:40 開会(ZOOM ご挨拶)

9:45 上映(YouTube 100分)

11:35 解説(日本語と英→日通訳・ZOOM 25分)

12:00 終了(延長の場合 12:15)

定員： 30名 事前申し込みが必要です。申し込み先着順。定員に達しましたら締め切ります。

会場： 自宅でオンライン参加。オンライン会議システム「ZOOM ミーティング」と動画共有プラットフォーム「YouTube」を利用します。

解説者：

Keiko Yamanaka (カリフォルニア大学バークレー校エスニックスタディーズ学部講師)

Dipesh Kharel (映像制作者、東京大学情報学環客員研究員)

司会： 澤田敬人 (グローバル・スタディーズ研究センター長)

解説者からのメッセージ：

ネパールから日本へ出稼ぎに行く男達。妻達も夫を追い日本で働く。村に残された子供達と面倒を見る祖父母。9才のビピシャもその一人。東京で再会した両親とはすれ違い。家族を引き裂く労働移住を描くドキュメンタリー。

申し込み方法： 以下の URL から入力フォームに入り、お申し込みください。

<https://bit.ly/3CVUVjt> 締め切りは2022年2月10日(木)

この一般公開講演で使用する映像は授業目的公衆送信補償金制度(SARTRAS)により著作

権および著作隣接権が保護されています。

令和3年度 群馬県立大学CEGLOS国際大学

「映像で知ろう! 外国人との共生」


